

# 令和7年度 第1回 地域連携推進会議 議事録

提出日 2025年7月23日

事業所名	共同生活事業所 ラ・プリマベラ		
所在地	青森県五所川原市字芭蕉48番地2		
開催日時	令和7年7月16日(水曜日) 午前10時～午前11時		
開催場所	地域活動支援センター ラ・プリマベラ		
出席者 (9名)	構成員	人数	備考
	入居者代表	1名	欠席者:なし
	入居者ご家族代表	1名	
	地域の関係者	1名	
	福祉・経営に知見を有する方	1名	
	行政担当職員	1名	
事業所職員	4名		
会議内容・進行	1. 管理者挨拶 2. 出席者自己紹介 3. 会議内容 (1)入居者の日常生活について (1)-2 入居者満足度調査結果について (2)緊急(災害)時に関すること (3)入居者の権利擁護について (4)その他 4. 閉会		
配布資料	・次第 ・令和6年度事業報告書 ・令和7年度事業計画書 ・事業所パンフレット ・入居者満足度調査結果		

## 会議内容

### 事業所の概要

- ・精神科病院を母体としたグループホームで、精神に障害を抱えている方が入所。入居定員は20名。
- ・以前は、統合失調症の方の入居が殆どであったが、近年は、精神遅滞、発達障害、アルコール依存などで入居される方が増えている。
- ・入居者の高齢化が深刻で、60歳以上の入居者が10名(全体の50%)、そのうち65歳以上の入居者が6名(30%)となっている。
- ・入居されている方が、将来的に自立した日常生活を送れるように、個別支援計画を立て、職員が日常のサポートを行っている。
- ・職員体制は、常勤7名、非常勤2名で支援を行っている。

### (1)入居者の日常生活について

- ・日中は病院デイケア通所13名、就労支援 B 通所6名、生活訓練1名(計20名)の参加。
- ・一人で言うことが困難(受診、各種手続き、買い物)な入居者は、同行や代行の支援を行っているが、できるだけ自分の事は自分でできるように支援している。
- ・外出場所は比較的自由だが、外出時には、外出先の把握や感染症が見られたときの感染経路の確認などのため外出届を提出していただいている。
- ・毎朝の健康観察を目的に、入居者の検温を行っている。以前、この検温でコロナ感染が分かったこともあったため、現在も継続して朝の検温を実施している。
- ・入居者の意向を聞きながら、買物や食事を楽しめる活動を年間行事に設定している。また、高価な物の購入時は、担当の職員と相談決定し購入するようにしている。
- ・自ら買物等へ外出し、購入においての達成感を味わっていただき、また、物価の高騰や社会情勢などを知るきっかけになればと考えている。
- ・入居者の要望はできるだけ叶えていきたいと思っているが、地域で感染症等が流行している時期は、行動の制限をせざるを得ない状況だが、入居者の活動を締め付けし過ぎないように協議していきたい。
- ・昨年度、新型コロナウイルス感染症で8月に1名、9月に5名が確認された。館内マスク着用を継続している為かこれ以上の感染拡大は見られていない。
- ・入居者のより良い生活をお手伝いできるように「入居者満足度調査」を実施した。

### (1)-2 「入居者満足度調査」実施結果について

- ・令和7年5月30日、入居者(男子15名、女子4名)を対象に実施。  
調査目的:入居者のニーズや意見を把握し、サービス内容の改善に繋げるために実施。

この調査を実施したことにより、できるだけ入居者の思いに近づけるように、支援する側も日々努力していかなければならないと感じた。

### (1)及び(1)-2 について、構成員の方からは質問・意見はなし。

## (2)緊急(災害)時に関すること

- ・2024年4月よりBCP(業務継続計画)の義務化に伴い、グループホームでも作成した。  
※BCP、消防計画書、感染症予防対応マニュアルを構成員の方に回覧してもらう。
- ・7月の内部研修では、BCPについて実施し、職員の更なる理解を深めた。
- ・緊急連絡網を使用しての連絡訓練は数年に一度実施している。(今年度実施予定)
- ・年2回の消防避難訓練、年1回の水害訓練を実施しており、職員、入居者の防災意識を高めている。
- ・今年2月に起きた入居者の火の不始末による居室火災について、幸い被害は拡大せず、初期消火(消火器使用)で鎮火した。日頃の訓練により、落ち着いた行動、冷静な判断ができた。近隣の住民の方には、ご心配、ご迷惑をおかけしました。それでも住民の方からは、励ましの言葉なども頂き、大変勇気づけられた。これからは更に、火災予防に関して努めていきたい。

## (2)について、構成員の方から質問。

○2月の火災について、近隣住民が消火の手伝いなど、普段から近隣住民との繋がりなどはあるのか。

- ・近所の方へ、お詫びのあいさつに伺ったところ、サイレンは聞こえたが、避難訓練だと思っていた方が多かった。普段から、もっと住民との関係を密にしていきたいと思った。

## ○避難訓練でも、消防署員や消防車は来るのか

- ・年2回(5月、10月)避難訓練を行っており、内1回の訓練は、消防署員から講評をいただいている。その際、消防署員の方は、消防車で来ている。避難訓練実施の際は、近隣の方へ実施のお知らせを配っているが、2月の火災の時は、お知らせは来ていなかったのが急遽の訓練だと思っていたと聞いている。

## (3)入居者の権利擁護について

- ・2023年4月に3部署合同で苦情処理委員会を設置している。また苦情対応マニュアルに沿って、担当の委員が、苦情をあげた入居者から事情を聴き解決に努めている。各部署の委員が苦情申し立てに対する体制を構築しているが、妄想などもあるため、見極めが困難である。

入居者に対し、誤解を招く言葉遣いや言い回しに気を付けるよう注意している。

- ・2023年4月に3部署合同で虐待防止委員会を設置しており、年2回(4月、12月)委員会を開催し、虐待防止に努めている。ポスター、倫理綱領は見える場所に掲示し、年2回(4月、11月)に「虐待の芽チェックリスト」を使用し自己評価を行い、支援の振り返りを行っている。
- ・地域の行事への積極的に参加し、地域との関係づくりに努めている。障害施設や入居者に対しての理解が不十分であることから、引き続き地域との関わりを深めていきたい。

(3)について、構成員の方から質問・意見

○虐待防止関係の外部の研修に参加することがあるのか

- ・当事業所では、委員になっている職員が外部研修に参加し、後日研修で学んだ内容を報告し、内部研修に活かしている。

○以前は友達感覚でのコミュニケーションがお互いの信頼関係を築いていたが、今の時代は全てが虐待に繋がりそうで、コミュニケーションの取り方も慎重になってしまう。

(4)その他

入居者代表より

- ・コロナの時期に、外出(買い物)できなかったことが残念だった。
- ・毎日快適に過ごしている。

構成員より入居者代表に質問

- ・どうゆうところで食品等の購入をされていますか。

入居者代表: 自転車で近くのスーパーやドラッグストアに行って、食料品などを購入している。時々、ホームの仲間とラーメンを食べに行っている

ご家族代表より

- ・特に不満もなく、何かあればスタッフの方が連絡してくれるので、家族としてはすごく安心できる。

構成員より職員に質問

- ・普段の様子とかお伝えする機会などはありますか。

職員: いつも通院しているところの受診は、大きく変わらなければ連絡はしないが、他の病院等へ受診した場合は、結果等含めてお伝えするようにしている。

構成員より職員に質問

- ・障害者グループホームへ入居している方の高齢化が進んでいるが、貴施設では、高齢者施設への住み替えをどのように考えているか。

職員: 冒頭に事業所概要で説明したように、当事業所は約3人に1人が65歳以上となっており、高齢化が進んでいる。介助する場面が多くなれば、住み替えは致し方ない。

午前 11 時 閉会